

「訪中団に参加して感じたこと」 飯塚友海

私はこの訪中団が二回目の海外でした。一回目は高校の修学旅行で行ったシンガポールでした。高校の仲のいい友達と信頼できる先生方ととても充実した修学旅行で、友達とお金をためてまた旅行に行こうと約束したほどでした。初めて日本以外の国を見てとても思い出に残り充実した時間でした。しかし、この訪中団での経験はそのシンガポールよりも濃く、充実し、思い出になったと感じています。

私はこの訪中団の話が大学の先生から聞いた時、一万円で行けて貴重な体験をできるこの機会を逃してはいけないと感じました。そのため、すぐに行こうと決めました。訪中団に参加させていただけることに決まりとてもうれしく感じたのですが、その一方で不安も募っていました。なぜなら、私の大学でいきたいと応募した一年生が私を含め二人しかいなく、あとは先輩方で私が心から頼れ、心を開ける人はとても限られていたからです。とんでもないことに私は足を突っ込んでしまったと思いました。しかし、同じ班のメンバーと話しコミュニケーションをとっていく中でその不安はすぐに消えていきました。この訪中の間にたくさん話してどんなことを目指しているのかや、やりたいことなど聞いてメンバーのことを知ることができ、色んな人のライフスタイルを知れて勉強になったし仲間ができたと感じました。

私は大学で中国語を授業+国際ゼミナールでも学んでおり、中国の留学生などと交流したり、中国語を教えてもらったりしていたため中国人に悪い印象はあまりなく、この訪中で同じ世代の中国の学生や若者と話し、今何を目標としているのか、何に興味を持っているのかを話すのを楽しみにしていました。それだけでなく、私は中国のお茶文化にとっても興味があり、また大好きでこの訪中でそのような文化にも触れたいと考えていました。この訪中ではあまり中国の若者と話すという時間はなく少し残念に感じているのですが、食事の席で絶対に出たジャスミン茶はやはりとてもおいしく、香りがよく心にしみました。

私はこの訪中の中で一番印象に残っているのは中国の企業見学です。新たな企業や事業を作ろうと挑戦している人たちにオフィスなどの場を貸す会社で、それ以外にもたくさんのことを提供していると聞き、中国の人は挑戦的で行動力があると感じました。中国のこの挑戦的でまた一生懸命に考え、働いている姿を見て、私もやってみたいことや興味ある事ことに逃げず挑戦したいと思いました。それがうまくいかなくても挑戦することが大切なのだと感じました。また、中国の人は真面目だという印象を受けました。私の訪中前の中国の人の印象は、愛想がなく気が強い人が多いのではないかと感じていました。しかし、中国のスーパーや観光地などの売店、レストランなどで中国の人と接する中で話すうちに笑顔で話してくれたり挨拶をしてくれたりなど私の印象は間違っていたと感じました。私たちはこの国の人はいかような人なのだと決めつけるのではなく、話すなどのコミュニケーションをとり相手のことを知ることが重要なのだと感じました。この訪中を通して私の視野は広がったと思いました。

この訪中で私が得られたことは中国の知識だけでなく、将来について考えることもできとても有意義な時間を過ごせたと思います。また、中国のイメージはよくなり、北京留学をしたいという思いが一層強くなったと感じます。このような機会をただ感謝しています。またこのような機会があったら積極的に参加したいと考えています。この経験を活かし今後の学習などに生かしていきたいです。

「日中友好協会の訪中団に参加して」 大川達己

今回の日中友好協会の訪中団に参加して私は、たくさんのことを学びました。私自身初めての中国で中国に行く前は中国に対するイメージはあまり良くなかったです。だけど中国の学生やお店の人など色んな人と関わることで中国の文化は面白いなと思いました。例えば、中国の学生と交流した時に私は漢方薬を作る班にいました。目の前で漢方薬を中国の学生と先生が作っていてそれにチャレンジしたい人と呼ばれている時に作ろうとチャレンジする人がいなくてその時に中国の学生がやってみなよと言って来て漢方薬を作ることができ、お店で買い物をしている時の T シャツを探していると定員の人がこれはどうと持ってきてくれました。中国の人はとても積極的だなと感じました。今回の訪中団であまり中国の人と関わるができなかったけど少し関わる時間があつた時にとてもその積極性がとてもインパクトを受けましたので今後もし中国にいくなようなことがあればもっとたくさん中国人と関わりたいなと思いました。また、私は中国語を喋れなくて周りの中国語を喋れる日本人や中国人にたくさん助けられたので次に中国に行くことがあればそれまでに中国語をしっかりと勉強してもっと深い交流ができるようにしたいと思います。

中国に行って一番面白かったのが天安門広場です。天安門広場では軍人の人がいてじっと動かない人や隊列を作って見回りをしている人がいて他の場所とは少し違う雰囲気があり面白かったです。また、毛沢東の絵がとても大きくて衝撃を受けたり天安門広場もとても広くてすごかったです。万里の長城では、とても高く階段が急でした。登るのも大変であまり登れなかったけどすごくいい景色が撮れたり昔の人は万里の長城をずっと作っていったのがすごいなと実感しました。故宮博物館では、ガイドの人が色んな知識を教えてくれて面白かったし、故宮の中は想像していたよりもずっと広くて衝撃を受けました。中国の空港に着いた時から日本とのスケールが違くて中国はなんでも大きかったり広かったりと近い国なのに日本とはこんなにも違うのかと思いました。ショッピングでは、歩くだけでたくさんのお店の人が話かけてきて断るのが大変だったり日本人だからといって高い値段で売ろうとする人ばかりで値切りが大変だったけど楽しかったです。値切りが難しく上手く出来なかったので次中国に行く時はり

ベンジしたいなと思います。

日中友好協会の訪中団に参加してたくさんの深い経験をすることができたし日本との文化の違いや生活の違いを体験できてとてもよかったです。また中国に行きたいなと思えたり中国のことをもっと知りたい勉強したいと思うことができてとても良い経験ができたなと満足しました。次行く時は中国語を勉強し色々な知識を身につけてから中国へ行ってみたいです。そして北京だけでなく違うところにも行ってみたいなと思いました。

「訪中前と訪中後の変化」 岡部未夢

今回、日中友好大学生訪中団に参加して、私の中で中国や中国人に対するイメージは大きく変わった。

日本と中国は政治的・歴史的な問題がいくつもあり、日本を良く思っていない中国人や、同じように中国を良く思っていない日本人がたくさんいると思っていた。それに加えて、中国人は「無愛想だ」とも思っていた。しかし、訪中の中で、日本を良く思っていないと感じることは少なかった。実際にコミュニケーションをとって、交流した中国人の方は、とても明るく、優しいと感じられた。「你好」や「謝謝」と話しかけたら、笑顔で返してくれる人がたくさんいて嬉しかった。そんな人たちを見るたびに温かい人たちばかりだと思ったし、これからも中国語の勉強を頑張ろうと改めて思えた。

他にも、私の中で中国は「綺麗」や「美しい」と感じたことは全くなかったが、訪れた観光名所や建築物はどこも歴史があり、華やかだった。街中も夜になるとあちこちがライトアップされていてとても綺麗だった。今までの中国のイメージを大きく変えた出来事だった。

これまで中国や中国人に対して良いイメージを持っていなかったのは、固定概念やメディアの情報だけで勝手に決めつけていたからだとわかった。実際に現地を訪れることで、日本とは全く違う文化や習慣があるということに改めて実感した。また、実際にコミュニケーションをとることで、繋がりが合うことができると感じた。だからこそ、お互いにコミュニケーションをとる機会を増やし、違いを知ることで、日中関係は改善されると思った。お互いの文化や習慣を学ぶことは、価値観を広げることにも繋がると感じた。また、普通ではあまり行くことのできない場所や、日本ではできないような経験を通して、今までの人生の中で感じることのなかったことがたくさんあった。さらに、たくさんのお会いがあった。班の中には同じ大学の友人はいたが、初めて出会った人たちとも仲良くなることができた。日中間で交流する前に、日日間の関係性を深めることが大事だと思った。

まとめとして、この訪中での交流や経験は、自分の中でとても良いものになった。日本と中国で、違いを認め合い、協力し、助け合っていくことは不可能なことではないと感じた。実際に交流していく中で、簡単に打ち解け合うことができるということ、訪中を通して身をもって知れたからだと思う。そして、私自身、訪中前と訪中後で、中国の悪いイメージはほぼ無くなり、むしろ好きになれたし、もっと知りたいと思えた。最初から決めつけるのではなく、実際に自分の目で見てみるのが大事だとわかった。また機会があれば積極的に参加して、もっと自分の視野を広げていきたいとも思った。そして、日本との違いを目の当たりにしたことで、様々な国へ行きたいという思いも強まった。今回、この訪中団に参加して良かったと改めて思った。

「訪中を終えて考えが変わったこと」門田 龍正

1. 訪中前と後の北京(中国)に対する気持ち・考え方の変化

訪中前は簡単にまとめると7つあります。広い、大きい、歴史ある建築物、空気が汚い、ご飯がまずい、ルールを守らない、治安が悪い。

まず、広い、大きいについてです。最初に北京についたとき空港内が本当に広く、でかく驚きました。そこでは、空気が変わったと感じました。またバスで移動するときの道路や建物なども広く大きかったです。特に建物は、でかいマンションみたいな建物が何個も並んでいる光景を見たとき、中国はこんなに建物があるのだと驚きました。想像以上の広さと大きかったです。

次は歴史ある建築物です。故宮の壁を見たときあまりの長さに写真を撮ってしまいました。万里の長城は見たときにあまりの長さに驚きました。そしてのぼる途中ではいい運動が出来てよかったです。また、ガイドさんから万里の長城の歴史を聞いているときに、昔友達から万里の長城が突破されたことを思い出しました。しかもその方法が内部から門を開けたことだったので、ちょっとおもしろかったです。中国に行ったら一番良かったことです。

空気はきれいでした。着く前はマスクがいると思っていましたが、実際に空気を吸うとすごくきれいで驚きました。結局マスクはいりませんでした。でも、たまたま近日に日中首脳会談があるため工場が停止中だったので常日頃は分かりません。とても残念です。公衆トイレはとても臭かったです。

ご飯はまずかったです。値段が高そうなものほど、おいしくなかったです。値段とおいしさは反比例でした。でも、一部はおいしかったです。特に北京ダックを食べる前の昼ごはんはとてもおいしかったです。これが中国なのだと思います。中国に行ったことがある友達が中国のおいしい店はこんなにまずくない、おいしいと言っていました。次、中国に行ったときおいしい店で食べてみたいです。

ルールを守らないは確かにそうだけど少しだけ違うと感じました。車が走っていても平気で渡ってきて危なかったです。実際にバスと接触事故がありました。その時は交渉で問題を解決できてとても驚きました。日本だと絶対問題になるので、文化の違いを体験できました。確かに交通ルールを守っていないけど、私も同じように渡ってみて違和感はありませんでした。中国には中国の文化があるだけなのだと感じました。

北京の治安は悪くありませんでした。とてもいいそうです。なぜなら、監視カメラだらけだったからです。予想以上の多さにびっくりしました。しかも見学した会社では、顔認証まであり監視社会なのだと感じました。私は監視社会を理由もなく嫌っていましたが、犯罪が起こさないような環境作りはとても大切だと感じました。

2. 自分の人生にどのような影響があったか

私は高校生までも外国語が必要ないと感じていました。大学生になり考えが変わりましたが、なかなか一歩が進めませんでした。きっかけが欲しくて今回、中国に訪中しました。結果は、中国人とコミュニケーションがしたくてたまりませんでした。しかし、今回は中国人との交流はショッピングでしかできませんでした。なぜなら、日中交流するときに自分の班になぜかしら中国人がいませんでした。本当に残念でした。しかし、外国語を学びたい、コミュニケーションをしたいと思えたので、大変良かったです。本当にありがとうございました。

「初めての訪中で学んだこと」 栗田舞花

私は、この団体に参加するまでは中国人に対して、不愛想というイメージを持っていた。しかし、中国で初めての昼食をとる時に、私のそのイメージが早くも変わった。お店で見かける女性の店員さんが私たちに笑顔を見せてくれた。日本では、接客時に笑顔でいるのは当たり前のことであるが、私は中国に対してそのようなイメージや期待をしていなかったため、笑顔であったことに大変驚いた。また、このように良いイメージになったことだけでなく、今まで経験したことないがために驚いたことがあった。交通ルールや清潔さである。中国では、バス移動がほとんどであった。その時に、10秒間に一度くらいの多いペースでクラクションを運転手さんが鳴らしていたことに、驚いた。だんだん慣れていったが、最初のうちは怖いと感じていた。また、日中は見学をする時間が多かったため、公衆トイレを利用することが多かった。トイレトペーパーは流れないことや、無いということは聞いていたが、トイレのドアに鍵がついていないことには驚いた。さらに、ドアを開けながら用を足していた光景を見て、海外だからこそ遭遇する状況に、驚きを隠せなかった。このような驚くことは多くあったが、それを、「これが中国なんだな」とすぐに受け入れることが出来た。それは、私の班である6班のバスガイドさんが、訪中の初日に「中国で経験することを批判するのではなく、文化として捉えてほしい」とおっしゃっていたからだ。その言葉を私は中国に訪れているときだけでなく、今でも覚えている。バスガイドさんから学んだ、文化をそのまま受け入れることは非常に大切なことだと考える。大切だと言っても簡単に出来ることではないとも思う。誰であっても、自分の今までの経験にないことや、良いと思っていない状況に出会ったら、批判的な視点で物事を見てしまう事もあると思う。そのため、文化をそのまま受け入れることは簡単ではない。バスガイドさんはふとおっしゃったのかもしれないが、私には考え方の大きな学びになってよかった。

北京の大学や、人民大会堂、天安門広場など、普通ではあまり行くことの出来ない場所や、経験をさせて頂き、今までの19年間の人生の中で感じる事のなかった経験をする事ができて感謝の気持ちでいっぱいである。この沢山の経験を学びあるものとなったのは、多くの良い出会いがあったからだと感じている。同じ大学の友人が班にはいたが、その人たちだけでなく、様々な人と関わり積極的に行くことで初めて出会った人とも仲良くなる事が出来た。その中には私と同じ地元の人もいたため、日本に帰ってきた今も、関わりを持ち、頻りに会うような関係になれた。人見知りだった私にとって、日日間の関係を広げられたことに大きな成長を感じた。

最後に、この訪中で文化を学ぶことや日日間の関係を広げられたことは、よい経験になった。文化を学ぶことは、他者と関わるための自分の価値観を広げることに繋がると学ぶことが出来て良かった。また、この訪中の機会があれば、ぜひ参加させて頂き、今回とは別の発見をしたいと考えるようになった。そして、他の国への興味を持つきっかけになったので、時間が無いからと言いつつ、積極的に海外の文化を学んでいき、自分の考え方を広げていきたいと目標も出来た。今回、参加して良かったと心から思った。

「訪中団参加の感想」 酒井芽衣

私は今回の訪中団に参加する半年前に、北京に半年間留学していました。留学していた時は、自分の行きたいところ、興味のある場所へだけ行くだけでしたが、この機会に、訪中団として中国北京を見に行くと、どのように北京を見ることができるとも興味深いと感じたので、今回の訪中団に参加しました。

言ったことのない場所へ行けたのはもちろん、ほかのいろいろな背景を持った日本人と一緒に中国を見るというのは、とても新

鮮で、とても大きな収穫があったと感じました。

私のように、中国語も勉強して中国もよくいく、中国が好きで、よく中国人や中国の生活習慣や文化についてよく知っているという人もいれば、中国語を学んではいるが、中国についてはよく知らないというひともいて、また、中国語も中国についても全く知らないという人もいました。しかしみな、中国について少なからず関心を持っていました。ルームメイトになった子は、初めての外国で、彼女の道路や、自転車や、食べ物に驚く反応はとても新鮮で、じぶんもはっとする機会が幾度ありました。中国と日本の差異がどこにあるのか、改めて認識させられて、とてもいい経験になりました。

今回の訪中では短い時間ではありましたが、たくさんの場所を訪れましたし、貴重な体験もたくさんすることができましたし、中国人学生とも本当に少しだけではありますが、交流ができました。また、どこかの場所に訪れるだけでなく、街並みや、食事や空気の冷たさを通して、今の北京を知ることができたと思います。北京は特に首都であり、中国の中でも特に北京に住む人の感性や誇りなどのすべての考え方の背景となっている北京の深く、荘厳な歴史を触れて、見て、感じるすることができました。

今、中国の経済や化学発展はすさまじく、新聞に毎日多く取り上げられ、多くの関心が寄せられ、また、日中の関係も今から良い方向に行こうとしている(はずだ!)この時期に、中国を訪れ、中国と中国人について知るといえるのはこの先生きていく中でとても大きな意味や、訪中者のなかでなにかしらの学びがあると感じました。今も、今までも、中国に対して日本人が感じているものは、悪いイメージが大きいと感じます。とても個人的な考えですが、日本人は差別的で排他的、閉鎖的な意識がどこかにあり、また、そこに安心を覚えるため、本当の多文化理解などが比較的難しいように感じます。

このように外国を訪問して、多種多様な考え方をすることは、中国との付き合いだけでなく、ほかの国とも友好的な関係を築くのに役立つと思います。私たち学生がこのような今後中国人と付き合い合っていく時、何となく自分が相手のやり方や、雰囲気が分かって、うまく付き合っていける助けになることを祈ります。

今回の訪問は北京だけでしたが、中国は国土も広く、いろいろな民族やいろいろな文化や歴史を持った都市があり、それぞれが違う個性を持っている、ということもどこかで知れたらよかったです。

「初の訪中を終えて」 鈴木拓馬

私は今回、本プログラムに参加し、初めて中国を訪れた。大学に入学してから中国語を勉強していることや、中国人留学生の友人が多いことなどからいつか行きたいと思っていたので、今回それが実現してとても充実した気持ちでいる。

実際に中国を訪れ少し意外だったことは、思っていたよりも空気が汚れていないことだった。中国人の友人からは空気が汚れているから対策を取るよと言われていたので少し警戒していたが、思っていたよりは汚れておらず、マスクなど特別な対策なしでも問題なく過ごすことができた。ガイドの方の話によると大気汚染の改善が進んでいるらしく汚染値はピーク時の 10 分の 1 になったそうだ。それでもまだ日本の何倍かの数値ではあるが、少し安心した。また、当たり前なことではあるのだが、身の回りの至る所に漢字があるので海外にいるような感覚があまりなく、中国の街並みには親しみを覚えた。

滞在中の食事は例外なくすべて中華料理だったが、中国で食べる本場の中華料理はやはり日本のものとは味付けが微妙に違って非常に興味深かった。ホテルなどで食べた伝統的な北京料理も美味しかったが、個人的には街中の飲食店で食べた家庭的な味の北京料理の方が日本の中華料理の味に近く食べやすかった。私の中では中華料理といえば四川料理というイメージが出来上がっていたので、今回辛い中華料理をたくさん食べられたことは収穫だったと思う。

滞在中、歴史的な場所にいくつか訪れる機会があったが、その中で一番印象に残っているのは故宮だ。当時の王朝の持っていた権力を強く感じられる素晴らしい場所だったと思う。自分は中国の歴史についてあまり関心がなく、知識もなかったが、今回故宮を訪れとても興味が湧いた。次の訪中の際にはしっかりと知識を身につけた上でいろいろな場所を訪れてみたいと思う。

歴史的な場所以外で一番印象に残っているのは天壇公園のあとに訪れた観光客向けの商業施設だ。友人が店員に声をかけられ捕まってしまったときは少し不安になったが、彼は終始笑っていて、店員とのやり取りを楽しんでいるのだとわかった。自分も何度か捕まってしまうことがあったが、店員との愉快的やりとりにも楽しくなった。最初 2 万円と言われたアップルのワイヤレスイヤホンを 3 千円で買えた時は思わず笑ってしまったが、実際に使ってみると非常によくできている偽物だな、と感心した。真偽をされた側からすればたまたまのものではないのだろうと思うが、偽物か本物かは大抵の場合重要でないという消費者の心理をうまく利用したやり口だと思った。

今回中国に行き、中国のすべてを知れたとは微塵も思わないが、大きな中国のほんのひとかけらでも知ることができたというのはとてもよかったと思う。初日に職員の方が「中国の人口は日本の 13 倍です。それだけ大きな国ですから、日本の 13 倍いい部分も悪い部分もあります。」とニコニコしながらおっしゃっていたが、なんとなくその意味が分かった気がする。もっと中国のことを知れるよう、これからも積極的に中国と関わっていきたい。

「中国の今」 高尾俊輝

まず始めに、このような豪華で、二度と体験できないような体験をさせてもらえたことに感謝しています。特に人民大会堂の中に入ったことや、そこで地位のある方々からのお話が聞けたことは、間違いなくこの先の人生においても経験できないことであったと感じています。ただ、中国政府や日本政府の協力のもとに進められたこの留学も少し僕なりに思うところがあったので、まずそれらを記してから、本題の日本と中国の関係性についてこの留学で得たことをもとに書いていきたいと思います。

まず大前提として、この留学で僕たちは日本青少年代表団として派遣され、日本と中国の青少年の交流を進めることを目的にしていたと思います。僕の勝手な予想では、常に行動するグループに数人、あるいは数十人ほど中国の大学生が所属されていたり、あるいはホテルの同部屋が中国の人だったりを考えていました。さすがにそれは現実的でなかったかもしれません。ただ実際には、この五日間で僕は中国の大学生の方と一言も話をしていないような気がします。僕の積極性がなかったことや仕方ない部分もあると思いますが、終わってみてこの留学は一体何だったのだろうとつい考えてしまいました。また訪問した場所も若い中国人の方々が行かないような所ばかり連れていかれたような気がします。観光名所をまわらせてもらいましたが、そういえば若い人をあまり見ていない気がしました。僕の大学に留学に来ている首都師範大学の方々十数人に聞いてみましたが、故宮に行ったことのある方は二人ほど、万里の長城に行ったことがある人も同じで数人ほどでした。日本と中国の青少年の交流をはかるなら、僕たちは中国の青少年がよく行くようなところに行くべきではないでしょうか。例えば、三里屯や食宝街、CCTV などといった今の中国を表すものであり、若者がたくさん訪れる場所の方がふさわしいと感じました。それが文化的な理解となり、交流につながると考えます。なにも、じじくさいとこばかり連れていくなと言っているわけではありません。もっと清潔で、最先端の街も北京にはあるんだよということを僕らに伝えてもよかったのではと思っただけです。

前置きが長くなりましたが、そろそろ本題に移りたいと思います。この留学では、中国を語る上では欠かせない名所である故宮、万里の長城、天壇公園に行くことができ、また今の中国を象徴する人民大会堂や天安門広場にも行くことができました。たった五日間といった短い期間で、僕らはかなり中国のことを知ることができたと思います。中国という国のスケールの大きさや歴史の厚みを肌で感じたうえで、日本との考え方の違いや生活様式の違い、そのほか多くの相違点を見つけることができました。僕の中で、中国と日本は足りないところを補い合うことで最良のパートナーでなれるのではないかと、という考えが芽生えています。さらに言うと、これだけの大きな留学プログラムにとどまらず、両国の青少年三万人交流といった巨大なプロジェクトを日中両国政府が推し進めていることから、日中交流の大きな波はすぐそこまで来ていると感じました。否が応にもこの波にのまれるであろうことを確信し、これからの自分の生き方を考えるようになりました。

最後に日中友好協会の方々や旅行会社の方々、その他支援してくださった方々に感謝を述べたいです。本当に貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

「訪中を終えて考えたこと」 瀧澤萌

大学に入学して初めて英語以外の外国語である中国語に触れ、9 カ月が経った。漢字に親しみを持ちながら学習を深めていく中で、はたと気が付いたことは中国の生活の実態やそこでの人々の営みや特徴をあまりにも知らないという事実であった。私の中国のイメージが訪中を終えてどのように変化し、どのような刺激を受けるかがとても興味があった。これが今回の訪中に期待した1番の事柄だ。実際に、私は渡航先であらゆる「中国式」を目の当たりにする。

まず、北京の街並みは一つ一つの建物は緻密かつ繊細な建造物でできており、東京にもないようなデザインではあったが、東京のような、街が一つの景観となるような統一性はなく空地も目立ち、ちぐはぐなイメージをもった。また、接客に関しても、客引きが強引で店が空いている時はスマートフォンを弄るなど、お客へのサービスを充実させるとかそういう姿勢ではなく、彼らにしたらくあくまでも「自分中心の商売」であるようだった。お客様への印象やサービスに重きを置く日本での接客とはまるで違い、とても新鮮に感じた。この接客が発展途上国から先進国への移行中であり、サービスを見直す風潮が広まれば今後店側の接客に対する姿勢は変化するのだろうかと思問に感じた。

一時期流行語にもなった中国人の爆買いは終わり、今の傾向はモノ消費ではなく体験やサービスなどのコト消費が増加していることは知っていた。それを裏付けたのは中国で最新の若者中心の企業関連施設見学だ。この会社のモットーは「お客様に楽しく快適な職場を提供する」というもので、その施設内はカフェや、睡眠がとれるカプセルベッドがあるなど仕事場にしてはとてもカジュアルな内装だった。ビルは自社のものではないが他の企業に貸して利益を得るという手法も斬新かつ柔軟な発想だと感じた。また驚いたのは実際見学に行った会社の社員はたった3人で大きなビルを管理しているという事実だ。ビルの入り口には監視カメラがあり、顔認証されないと扉が開かないようになっており、その会社のセキュリティやシステムの技術の高さがうかがえた。このように、いい仕事をするために快適なスペースやサービスを自社の利益を生み出す商品にするということは、よりよい空間やサービスに価値を見出すといった需要があるということだ。そのようにして、モノ消費からサービスなどのコト消費へ移行中の中国を垣間見た気がした。

また、中国国内の差はあるにせよ中国は急激に発展を遂げており、特にソフトウェア産業の技術発展は顕著である。今後も中国をはじめとする中国語圏のアジア諸国は経済成長を遂げていこう。日本の観光地で視覚的、あるいは聴覚的にも感じられるほどアジア圏の観光客は増加している。これからますます日本の中でも中国語の表記が増え、中国語が日常に溶け込み、身近

なものになっていくことだろう。

今までは、外国語の講義で習った中国語を使って在学中の留学生とコミュニケーションをとるだけに留まっていた。しかし今回の訪中を通して将来のビジネスや自分のキャリアにも活用したいという思いが強くなった。9 月中国語を学んできたが、実際に現地に行ってみても聞き取れる情報は僅かであった。今回の訪中で受けた刺激をモチベーションにつなげ、今後も中国語の学習に励んでいきたいと思う。

「北京を見て感じたこと、現地の方と交流して考えたこと」 鳥井こなつ

私は今まで中国を訪れたことが無く、今回の訪中団に参加して初めて中国に行った。これまでの生活の中で、中国についての情報を受け取ったり考えたりすることはテレビのニュースやワイドショー、ネットや SNS での個人のコメントからが主だった。テレビのニュースから得る情報は日中間の政治的な話題が主だったので、私の中国への認識は、母国の日本と対立している国で、技術的にも経済的にも十分発展してきているのに自国のことを発展途上国とし環境への負担にあまり考慮しない国だ、というものだった。またプロトタイプ的な見方だが、中国人は素行が悪いというイメージも持っていた。これらのよくないイメージに対して、ネットと SNS からは良いイメージも得ることがあった。ゲーム、アニメなどのサブカルチャー分野において、中国の方が上質で良い仕事をしているのを度々目にするからだ。ネット上にご自身が作成された作品を投稿している人の中には日本作品のファンアートを投稿している方もいて、親近感を抱くこともある。訪中前は、政治的、素行や社会の面ではあまりよくないイメージを持っていたが、若者世代に対してはお互いに仲良くできるのではないかと期待していた。

中国国内では視覚・聴覚的に日本との違いを多く目にした。北京市街の建物はとても高いため日の入りが早く感じるほどだったし、外壁塗装が派手な色であること、高速道路が市街中に巡らされていること、公衆トイレがかなり多く設置されていること、スーパーなどの物価がとても安いこと、比較して観光地の商品はきっちりお金を取っていること、ネオンを使うホテルや店が多く、鮮やかな色をたくさん使っていること、街中に政府が設定した標語がモニュメントとしておかれていること、監視カメラが多く設置されていること。空港内の外国語表示を見ると、英語や韓国語を押しつけて日本語表示が一番目に来ているのが興味深く感じた。ほかにも、タバコが嫌われるようになるのは発展する都市の常だが、空港での喫煙スペースは地面に線が引かれるのみで仕切りがあるわけではなかったことや、街中の路上にはゴミが無くとてもきれいだったことが興味深かった。

中国に渡りいろんな方を見て、中国は自己を通す人が多いのであって、冷たいわけでも悪人がいるわけでもないのだろうと思った。北京市街では車に気をつけるよう注意されたが、その注意の通り、バスで移動している最中もクラクションがとてもよく聞こえ、乗車しているバスの前に車が割り込んだり、レーンを横断するために無茶に思える運転を目にしたりと日本ではほとんどない現象を多く見た。スーパーやコンビニの店員はしっかり業務を遂行するものの、過度に笑みを浮かべることはなかった。しかし北京城市大学見学の際に会話した学生はとてもニコニコと接してくれたし、屋台の店主はこちらが中国語に不慣れだとわかると簡単な言葉を使い、わからない言葉は声だけでなく紙に書いて会話してくれた。訪中する前までは、協調性が無く自己の利益を優先するイメージを持っていたが、それとは異なり、実際には相手に合わせてくれる人はかなり多くいるとわかった。

母国日本と禍根があり、現在も対立することが多い隣国中国だが、国を形成している人たちは私たちと同じ普通の人で、目の前の相手に合わせようとしてくれた。中国全体を見ることはかなわなかったが、北京を見るだけでも、日本とは文化が異なるだけで不通に発展した良い年だと思った。今回訪中団に参加したことで普通の人たちと接することができ、とても良い機会だったと感じる。

「偏見の塊だった自分」 林里香

中国に行くこと決まったとき、私はただ「一万円だから、それだけで海外に行って思い出ができるなら得だな」くらいの気持ちでいた。友達が訪中に興味を持ち、「一緒に詳しい話を聞きに行こう」と私を誘ってくれなければ、訪中に参加することはなかっただろう。実際授業中に訪中について話が出たときも、「そんなのがあるんだ」くらいにしか思っていなかった。中国に対する私の中のイメージは好印象ではなく、例えば、空気が汚い、盗難が多い、日本の真似をする、衛生的な面がしっかりしていない等の悪いものばかりが頭の中に浮かんでしまう国であった。また訪中団に配布された注意事項がまとめられた紙を読んだらますます良い印象はなくなっていた。多くの不安を抱えてまずは研修会を迎えた。私は学校で中国語を履修していたからこの訪中に参加できたため、ほかの団員もそのような理由だろうと思っていた。しかし、他大学の団員のほとんどが違う理由であり、しかも視野を広く持っていた。「自分の将来のために中国を見ておきたい」「他国を知ってきたから中国も自分で知りたい」というような考えがあり、私も自分で何かを見つけたいと思った。

中国に着いて、偏見があったためか悪いところが目についた。車のクラクションの音は絶えず横断歩道の意味がない道路、悪臭が漂うトイレ、空気が汚く遠くの景色が濁って見える夜景、言葉が通じないときのホテル従業員の悪い態度等があり、日本は良い国なのだなとあらためて実感したときがあった。しかし他にも多くのことを感じることもできた。せっかく中国に来たのだから

中国の人と少しでも多くかわりたいたいと思ひ、苦手な英語や全然覚えていない中国語を使って多くの人に話しかけてみた。例えば、食事を運んできてもらったときなど感謝するときは「谢谢」、かわいい子どもがいたときは「可爱」など話しかけてみたら、笑顔で返してくれる人もいた。また中国の大学生と交流するとき、頑張って日本語で話しかけてきてくれた。そのとき私が思ったのは、当たり前だけど中国人も日本人と同じ人間なのだ実感した。海外に行ったことなく、外国人ともあまり関わってこなかったため「日本人」と「外国人」という境界線がある感覚でいたが、自分で直接体験してみるとそんな線はないと感ずることができた。特に中国の人の人間性に触れたときは、大げさかもしれないが、中国“人”と呼びたくないと思つた。とても自分たちと境界線があるような呼び方だとも思つてしまうほど私の中国に対する想ひは変わつていた。

この訪中を通して私の中での考えは変わり、いろんなものがひっくり返された気がした。また、偏見というものを多く持っていたものもほとんどなくなつていた。全てがいい方向へと変化したわけではないが、悪い考えを最初から持つのはやめ、自分の目で見て感じ、考えることをしようと思つた。訪中して夢が固まつたとかは特になし、これからどのように世界を変えたいとか大きな変化は自分の中には生まれなかったが、確実に視野は広がつたのは実感した。夢は特別決まつたわけではないと述べたが、中国にいたときはとても単純だが少しの間バイリンガルになりたいという考えも浮かんだ。日本という狭い世界の人とだけ関わって生きていくだけではなく、いろんな国のいろんな考えを持つ人と関わつてみたいと思つた。海外にはまた行ってさまざまな世界を見たいと思つたが、行かなくても日本にいる外国の方とお話できる機会があれば積極的になつてみようと思つた。

「訪中から得たこと」 堀内 絵里加

今回の訪中を通して、中国への印象の変化や、学ぶことがたくさんありました。

私は大学の授業で、中国語を学んでいます。私にとって中国語は発音が特に難しく、でも中国語を話せるようになりたいと思つていました。今回このような機会で、中国語をもっと近くで感じて、中国語の難しさを実感しました。空港などで放送がかかるときに、中国語と英語のアナウンスが聞こえて、普段、英語が簡単に聞こえることはないけど、簡単に聞こえるくらい、中国語を聞き取るのは難しかったです。だからこそ、もっと中国語を勉強してできるようになりたいと思つていました。また、私たちの近くにいてくれたガイドさんや先生が、中国語が分からなかったときに日本語で教えてくれたり、たくさんの質問に答えてくれて、とても嬉しかったし楽しかったです。その方たちは、日本語がとても上手で、困つた時に助けてくれて、やっぱり違う国の言語を話すことができるってとてもかっこいいと思つたし、そんな人になりたいと思つていました。

訪中前、中国人に対して少し冷たいという印象を勝手に持っていたけど、実際に中国を訪れて、とても温かい人がたくさんいて、印象が変わりました。笑顔で挨拶をしてくれたり、手を振ってくれて、私も笑顔になりました。それぞれの国に対してのイメージは、実際に現地に行つてみないとわからないなと思つていました。思い込みでどういふ国かということ、決めつけるのではなく、詳しく調べてみたり、自分の目で見て感ずることが大切だと思つていました。また、訪中前から、買い物のときに値下げ交渉ができると聞いていたけど、現地のショッピングモールのようなところで実際に買い物をしていて悩んでいたら、声をかけてきて、断ると値段をとても下げてくれてびっくりしました。すごく積極的に話しかけてきて、日本との違いを感ずました。また、街中のお手洗いにいったときに、トイレットペーパーがないとか、そのごみを流さないでかごに捨てるとか、日本での当たり前の暮らしとは異なり、驚きました。私は日本での生活に慣れてしまつているからそういうことが不自然に感ずてしまうけど、中国の人にとってはそれが当たり前なのだろうと思つていました。国によって違うこともたくさんあるなと思つていました。

中国人の方と話して、私は中国語をうまく言えなくて伝わらなかつたときに、でも英語で話すとお互いにコミュニケーションをとることができて、英語のすごさと、英語を学ぶことの大切さを実感しました。言語が違うと、コミュニケーションもとれないし、相手を知ることまでできないから、母国語以外の言語を学びたいと、今回の訪中で強く思つていました。また今回の訪中でたくさんの人と交流し、たくさんの人に出会えて本当に良かったなと思つてます。夢に向かって頑張っている人がたくさんいて、私も、自分のなりたい自分の未来に向かって努力し続けたいです。今回の訪中で得たことと、今英語と中国語を勉強しているので、それらを生かせる仕事をしたいと思つていました。訪中は、私の人生の中でとてもいい経験になりました。ありがとうございました。

「訪中団を通じて」 三浦有莉佳

今回、私がこの日中友好に参加をしようかと考えたのは、私は 2018 年の夏休みに二週間程自身の大学の研修で初めての中国に行きました。これは、私にとって初めての海外渡航でもありました。その時、勉強してきたはずの中国語を積極的に話すことができず、自身の勉強不足を思い知り凄く悔しい思いをしたので、積極的に中国の人と交流することに挑戦しようと考えたからです。

渡航前の中国については、行き先が北京だったこともあり黄砂や盗難などの問題もあり無事に過ごせるかなどの不安がありました。しかし、実際現地でも過ごしてみると以前テレビで見たような黄砂の問題もなく、出入り口付近の荷物検査の厳重さや警備員の多さなど中国側の対策が見られ安心して5日間を過ごすことができました。

中国への印象、テレビや人からの話などから日本より発展が遅れおり、人に関しては失礼ですか他人へは無関心であろうと考えていました。しかし、北京の街の発展は日本よりも進んでおり、聞いた話では中国の人たちはある人が中国に援助したりすれば、その人の孫まで感謝されてもてなされるという国民性であるそうです。この5日間の訪中で中国への印象と考え方は大きく変わりました。

今後、日本そして自分は、隣国隣人としてどのように中国とその国民と付き合っていくべきかについてこの訪中の際、中国の街の様子や生活の様子を日本と比較して私が考えたことは、中国の交通状況は、日本と同じで「歩行者優先」の法規定があるものの実際の状況は横断歩道があるが、歩行者用の信号が少なく、車も歩行者を無視して走行しているため、車両優先の状態となっており、走行車をよけながら向かいまで行かなければならない状態である。また、街中や大学の校内に野良犬が多くいました。しかし、日本と違って防犯の意識は高く、大学の設備なども充実していいました。以上のことからこれからのお互いの国の付き合い方としては、「互いの社会問題などの対策、考え方などを共有して、解決策を考えあつていくことのできる関係」を作っていくことだと私は考えました。

私は法学部で勉強をしていることから、今回のこの日中友好訪中団の参加を通して中国語を習得し、中国の法律や歴史などについて勉強したい、中国へ留学したいという思いが強くなりました。以前から中国への留学を考えていましたが留学関連の雑誌を見ても英語圏が多く、社会人用の中国の留学は見当りませんでした。今回の訪中で留学についての説明会に参加して日中友好協会が行っている留学制度があることを知り、この日中友好訪中団は、中国留学への将来設計を確立する要となりました。これからは、そのために中国語の習得と大学の勉強により一層力をいれていきます。

そして、私は損害保険料率算出機構への就職を考えています。そこで、上記などの自身が習得したものを生かして、どのようにして仕事を中国へと発展できているのかについて考えていきたいです。

「訪中後の中国の印象」 安延 龍汰

・私は日本青少年代表団友好協会分団訪中団の一員として、12月20日から12月24日にかけて北京へ訪問しました。19日には前泊で事前研修があり、同じ班員との交流もあり、親睦を深めました。

20日の朝に閑空を出発し、11:30頃に北京へ到着しました。その後はガイドさんを交えてバスで市内へ移動し、昼食をレストランでとりました。回転テーブルでの食事は初体験でした。皆で食卓を囲み、話をしながら食事を楽しむ文化は、ライフスタイルの多様化する日本では改めて積極的に取り入れていきたいものだと実感しました。

21日には、北京城市学院航天城キャンパスと天安門広場へ訪問しました。キャンパスでは、テレビでよくみるグリーンバックやニュース番組等のデスク、カメラや照明の本格的な設備が整っており圧倒されました。その後は天安門広場へ行きました。おそらく一度ニュースで見たことのある場所に実際に行ってみて、広場の開放的な広さは衝撃的でした。中国の重要機関が集中していることもあり、警備は非常に厳重でした。見学後はホテルへ移動し、歓迎会が開かれました。日本と中国双方のパフォーマンスが披露され、非常に圧巻でした。

22日は万里の長城と市場へショッピングに行きました。万里の長城では、階段の段差が激しく、登り降りに少し苦勞しました。団員の仲間と上の方まで登って見おろした山麓や建物は非常に爽快で素晴らしいものでした。午後は市場へショッピングに行きました。団員の仲間と行動し、醍醐味である値切りをしながらショッピングを楽しみました。私は英語での値切りに成功したので、満足しています。

23日には企業訪問と人民大会堂で交流大会がありました。企業訪問では、出勤時に入口でカメラによる顔認証で確認ができるシステムや、電子決済で軽食や飲み物が気軽に購入できるシステムに衝撃を覚え、日本でもいち早く取り入れていきたいシステムだと実感しました。午後には人民大会堂で交流大会がありました。国賓クラスの人たちしか入ることのできない場所での行事参加は人生で二度と体験できない貴重な体験でした。交流大会では挨拶から始まり、パフォーマンスが披露されました。中国側のオーケストラの演奏とダンスと日本側の少林寺拳法のパフォーマンスには非常に感動しました。北京市規画展覽館へ行きました。北京市中心部の壮大な模型を見学しました。模型で見えるもの、都市の大きさには感心しました。

午後は北京首都国際空港へ行き、飛行機に乗り、閑空へ向けて帰路につきました。

中国の訪問を通して、中国の印象が変わりました。

日本のニュースでは、マイナス面しか報道されず、中国のに対する印象は悪く感じていました。また、中国では英語は通じるが、相手が聞き取れない場合は冷遇されると友人から聞いていました。しかし、訪問を通して、英語は親身に聞いていただけました。会話も途切れることなくコミュニケーションをとることができました。レストランで食事を運んでいただいた際やショッピングのお会計でおつりを受け取った際、「謝謝」という笑顔が返してくれました。

中国のマイナスな印象をすべて消し去ることは難しいですが、お互いの文化や価値観を理解し、歩みよっていく姿勢が大事だと

実感しました。今後も旅行先やアルバイトでも中国人の方たちと積極的にコミュニケーションをとっていきたいと思います。

「日中友好協会訪中団感想」 山口まどか

私が今回訪中団として参加したい理由は 2 つありました。1つは、中国という国を改めて詳しく知ること、もう一つは日本や中国の様々な大学の学生たちと交流することを通して、客観的な目線で物事を見る力をつけ、自分の当たり前だと思っていた常識を覆すことです。私は去年から今年にかけて語学留学という形で中国に留学していました。その頃はただ中国語でコミュニケーションを図ること、HSK6 級に合格することを目標としていたため、中国の学生が日本に対してどのような感情を抱いているか、国際問題などの中国人学生に聞いてみたかったことを聞けずにはいません。もちろん中国人は日本のメディアで報道されているような悪い人ばかりではないことを私は知っていますが、そのようなことを聞くために参加を決意しました。

ただ、参加前私が訪中団に参加したいと友達に言った際、周囲の友達からは 1 万円で中国に行けるわけがない、何かの詐欺である、中国は危ないから行かないほうがいいと言われました。しかし研修会で今回の訪中団にかかる費用は中国の国家予算から捻出されていることを知ったとき、なぜ中国側は何億もの莫大な金額をかけて日本人学生にこのような機会を与えてくれるのか考えました。メディアを通して伝えられている中国は「爆買い」「マナーの悪さ」「治安が悪い」「声大きい」など悪い観点だけに焦点を当てて報道されていることが多いですが、現実はそのだけではないことを知ってもらいたかったから、中国という国の本質を知ってもらいたかったから、若者に日中友好関係を築く架け橋になってほしかったから、このように要因は様々あることが分かりました。最終的に結論にはたどり着きませんでした。機会が与えられている以上私たちは訪中団の行程をただ楽しかったで終わらせることだけでなく、参加できなかった人の分まで友好という重大な問題について考えなければならないということも研修会で再認識しました。

また、今回の友好関係を築く訪中団のイベントに参加した学生の一見解に過ぎませんが、中国人は日本に対して必ずしも悪い感情を持っているわけではないということが行程を通して再確認できました。北京城市学院に行った際、現地大学生と拙い中国語でしたが、コミュニケーションを測ったところ、政治問題にかかわらず私たちにわかりやすいように簡単な中国語を使って優しく説明してくれたり、天坛公園付近でショッピングをした際も、日本人だから商品を買らないということは全く無く、学生だから安くしてあげるなど売り手側が外国人との値引き交渉を楽しんでいることも見受けられました。ただ、私たちは今回「友好」という観点到に着目し、行事に参加していたため、今回出会った中国人の大半は日本に対して悪い印象よりも良い印象の方が強かったはず。今後中国と日本とのより良い関係性を築いていければ、より幅広い層の中国人とかかわりを持ち、その方々の考えを聞いていかなければならないと感じました。

今後の訪中団への要望を強いて言うなら、中国語を話す機会がほとんどなかったため増やしてほしいということ、自由時間が少なく外国人用に飾られた中国しか見ることが出来なかった点についてです。今回の訪問では滞在日数がわずか数日でしかなかったため、北京のほんの一部しか見ていません。より中国を理解するために、どのようなことが起こったがゆえに現在の中国が成り立っているのか、何が中国の礎となっているのか、日本人が目を見てしまうところに焦点を当てて現実を知ることにも必要なのではないかと感じました。

今回の訪中で中国留学での心残りすべてを解消することはできませんでしたが、今後の就職活動や人生の経験として自分が直接見聞きした話をブラッシュアップできればよいと考えています。一方で訪中団参加以降、日中友好協会の役員の方々のようにもっとスラスラ会話できるようになるまで中国語を学びたい、日本と中国両国の歴史を詳しく知りたい、将来ビジネスパーソンとして日中と中国をビジネスで繋ぐ架け橋になりたいという思いもいっそう強くなりました。今回の訪中を通して感じた思いを忘れず、今後より中国語学習に励み、日中両国をつなぐキーマンになることが今後の目標です。

最後になりましたが、このように中国の現状を知る素晴らしい機会を与えてくださった日中友好協会の方々、関係者の皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

弓倉茉莉

まず、訪中団に私を推薦して下さった支先生、急に行くことになっても迷わず背中を押してくれたお母さん、私たちを守ってくれた訪中団のスタッフの皆さん本当に素敵な経験をさせて下さった事を心から感謝します。今回私は大学で中国語の支先生の薦めもあってこの日中友好大学生訪中団に参加しました。私は海外に行くこと自体が初めての事だったので中国と日本の文化の違いに戸惑わないかや、慣れない環境の中で日本の他の学生と仲良くやっていけるかなど様々な不安を抱えたまま参加しました。ただ、元々中華料理は大好きで中国の歴史的な建造物、特に今回行った万里の長城に興味があったのでそういう部分は純粋に楽しみで申し込みました。

文化の違いは早速関西国際空港から中国へ向かう飛行機の中で感じました。中国のキャビンアテンダントの方は同僚の方で楽しそうに会話しながらリラックスしてお仕事をなさって日本ではあまり見ない光景だったので驚きました。ただ、抵抗感を感じるわけではなくこれが中国のスタンダードなんだなと案外ずっと自分の中で受け入れられたのを覚えています。中国に着いてか

ら首都博物館へ行くときのバスの中でも文化の違いを感じました。バスに乗っているとよく運転手さんがクラクションを鳴らしていて最初はすごく音も大きいし鳴らす頻度も高いので一回一回びっくりしていたのですがクラクションを鳴らす意味も日本と違い今からこの道を通るから道を開けてという意味だったのです。そう分かってからはあまり驚かなくなりました。またバスの中から見える全く同じ形同じ大きさのとても大きな建物、十棟位が塊で建っていてこれも日本ではあまり見られない光景なので見るたび不思議で写真を撮っていました。そして楽しみにしていた中国料理はいつもとても美味しく皆とこれから年末年始で太るのにこんなに美味しいと食べ過ぎちゃうねと言いながらも毎回とても楽しめました。私は大根餅が大好きで母の中国人の友人によく頂いていて今回は中国では食べられないのかなと思っていたら最終日に本場の大根餅を食べられてとても嬉しかったです。そして、もう一つの楽しみ万里の長城。私は体力には自信があったので友達に許しを貰って1人で頂上を目指しました。頂上を目指す中で目にはいった石で造られた物見やぐらや見渡す限り続く広大な山や自然に私が元気を貰っている大好きな漫画『キングダム』の世界に入ったようでとても興奮しました。頂上はとても空気が澄んでいて本当に来て良かったと汗ばみながら思いました。また、今回訪れた天安門でもキングダムの時代秦で建てられた建物がありあまりにも綺麗で大きかったので太古に現代でも心を奪われるような建物を造れる技術に圧倒されました。

そして、今回中国に行く前と行ってからの印象の変化を帰る前に聞かれている人を見て自分はどうかと考えました。出身が神戸の北野という所で外国の方とは比較的好く接してきました。中国の方も例外ではありません。ただ彼らのほとんどは日本で長く暮らしていて正直リアルな中国と触れる機会はほとんどありませんでした。テレビのワイドショーではあまり中国のポジティブな面は放送されて無いのですが個人的にはそこよりも社会的にも科学技術的にもこれから世界を牽引していく国の一つである強い中国がもう過去ではない新たな強さを持った中国というイメージで訪れました。実際行ってみると国が急成長したのもあってすべてが追い付いている訳ではないと感じる部分もありましたが私たちはこれから日本人として日本にどういう国であってほしいか自分はどういう日本人に人になるべきか考え直さなくてはと焦りすら感じました。それくらい自分の目で見て肌で感じた中国に色々考えさせられました。そして何より中国に対して今まで特に感情は無かったのですが今回で大好きになりました。中国のスーパーで万引きと間違われておじさんに追いかけて回される事もありましたがそんなのがどうでもよくなる位魅力溢れる中国の虜になりました。私の名前である茉莉が入ってある茉莉花の歌を人民大会堂で聞いたときも感動し中国への感謝でいっぱいになりました。また中国へ絶対に来たいと思えました。

最後になりますが今回の訪中で私に関わってくださった全ての方々に感謝します。